

清泉女子大学 過去問題

これまでに志願のあった科目について、最も新しい問題の情報を公開します。

なお、公開されていない科目は志願のなかった科目です。

また、一義的な解答例を示すことが難しい問題は、その公開を省略します。

学部学科	文学部日本語日本文学科	
入試	一般編入学試験	
公開科目	国語	
公開年度	2024 年度入試	
出題意図	志望する分野に関する知識・理解を測る。	
解答例	問一	問1 ⑤ 問2 東京に住む地方出身者にとって現代の故郷は自分がそこを出てきた場所として失われたものであると同時に、故郷自体が出てきた時代とはまったく異なる場所になっているという意味でも失われたものであるということ。 問3 ② 問4 建築物もつくられる場所性を問わない普遍的なデザインがよいとするような価値観。 問5 ③
	問二	1 島崎藤村 2 志賀直哉 3 芥川龍之介 4 坂口安吾 5 遠藤周作

解答例	問三	<p>1 キ</p> <p>2 ケ</p> <p>3 エ</p> <p>4 コ</p> <p>5 ア</p>
	問四	<p>問1</p> <p>a : ふ、 b : なぐさむ</p> <p>問2</p> <p>ア : 大変〔とても・非常に〕</p> <p>イ : 退屈</p> <p>ウ : 可愛らしさが備わり</p> <p>問3</p> <p>上東院がおっしゃられたので</p> <p>問4</p> <p>『源氏（物語）』</p> <p>問5</p> <p>②</p> <p>問6</p> <p>最初は立派過ぎて付き合いにくい人なのでは、と思われていたが、実際にはぼんやりしていて、世慣れておらず、一という字すら書かなさそうな様子なのが意外だと思われていた。</p>
	問五	<p>1 懐風藻</p> <p>2 堤中納言物語</p> <p>3 建礼門院右京大夫集</p> <p>4 増鏡</p> <p>5 松尾芭蕉</p>
	問六	<p>1 エ</p> <p>2 ク</p> <p>3 オ</p> <p>4 キ</p> <p>5 カ</p>

2024（令和6）年度
編入学試験
日本語日本文学科

国 語

10時00分～11時30分

受験についての注意

1. 試験開始の前に、以下の注意をよく読んでおくこと。
2. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開かないこと。
3. この冊子の問題本文は11ページ、問題は6問である。3年次編入学試験の受験者と2年次編入学試験の受験者で次のとおり解答すべき問題が異なるので、必ず指定された問題（設問）を解答すること。

【3年次編入学試験受験者】、、、 の計4問に解答すること。

【2年次編入学試験受験者】、、、 の計4問に解答すること。

4. 試験開始後、問題を確認し、落丁・乱丁の箇所があるときは手をあげて交換を求めること。
5. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはシャープペンシルで記入すること。
6. 試験開始の前に、解答用紙の定められた位置に氏名と受験番号を記入すること。
7. 解答は解答用紙の指定された場所に記入すること。余白、裏面には何も書いてはならない。
8. 筆記用具、受験票以外のものは、かばん等に入れ、机の下に置くこと。
9. 試験時間中に無断で退場することはできない。
10. 終了の合図があったら、ただちに筆記用具を置き、解答用紙は表を上にして置くこと。この冊子（試験問題）は持ち帰ってよい。

【一】 次の文章を読んで、あとの設問に答えよ。〔40点〕

故郷というものは、生まれ育った土地を一度も出なければつきりとは自覚されない観念である。故郷を出てきたからこそ、故郷は懐かしいもの、失ったもの、しかしできればいつまでも失いたくないものとして心の中に浮かぶ。

ただし、現代において思い描かれる故郷は、高度経済成長期以前のそれとはやや異なるように思われる。高度経済成長期以前の故郷は、変転の激しい東京などの大都市に比して、いつまでも変わらない田舎や自然として表象された。しかし現代の故郷は、東京並みに、しばしば東京以上に変転するものとして表象されるからだ。

高層ビルや巨大な商業施設は、かつては東京にあっても故郷にはなかったが、今日では、故郷にも高層ビルは林立しているし、故郷のほうがよくほど巨大な商業施設があるのだ。つまり故郷は、自分が出てきた場所、捨ててきた場所として失われただけでなく、自分が出てきた時代とはまったく異なる場所になったという意味でも失われたのである。

この¹二重の喪失感²は、私たちに奇妙な感覚をもたらす。それは、東京にこそ故郷らしきものがあるという感覚である。

たとえば映画『三丁目の夕日』やリリー・フランキーの『東京タワー』などにおいて、東京タワーは未来に向かって進歩する社会のシンボルとしてではなく、すでに懐かしい故郷として描かれている。

東京タワーは、東京にずっと住んでいた人にとっても、あとから東京にやってきた人にとっても共通の象徴なのである。いやむしろ、あとから東京にきた人ほど東京タワーを共通の象徴として認識しているかもしれない。それは、いわば富士山のような存在になりつつある。

そのように東京には多くの人々が共通感覚を持つ象徴的なものが存在するにもかかわらず、皮肉なことに、それぞ
れの人々が捨ててきた故郷では、その地方ごとの共通感覚であったもの——田園、商店、映画館、駅舎などが失われ
続けている。

山奥の小さな村でなくても、長い歴史を持つ城下町ですら、あと数十年で町や村自体が消える可能性もある、そん
な時代に私たちは生きています。その喪失感が、最も故郷とは遠いはずの東京の風景を故郷として位置づけさせたいと
思わせるのだ。その屈折した心理を『三丁目の夕日』や『東京タワー』がとらえて離さないのである。

高度経済成長の黎明期に東京に流入した若者ですら、すでに齡八〇代になっており、自分が出郷してきたときの東
京と現在の東京とでは、浦島太郎かと思われるほど変わっている。昭和三五（一九六〇）年の東京には一〇階建ての
ビルすら丸の内以外にはあまりなかった。大森海岸はまだ海苔の産地であり、中野を過ぎれば狸がいた。勤務先のオ
フィス街ですら、少し横に入ればバラックに等しい木造の店舗が蝟集し、女たちが男たちの袖を引いて誘っていたの
であり、そこから郊外の家に帰れば、駅から田んぼのあぜ道を歩いてようやく我が家に辿り着くのも常であった。今
から見れば明治大正の時代とさして変わりはない。

それから五〇年ばかりを経て、おそらくは「東京人」たちの心の中では、かつての郊外の田園風景のみならず、都
心のオフィス街や横丁の飲み屋街ですら、すでに懐古と **X** の対象になった。心の中にある風景が失われたのだ。
若かった日々が幻のように思われるとき、風景は幻影となり、胸をかきむしる。喪失感が痛みとなり、失われたもの
を取り戻したいと思うようになる。

懐古趣味というものはいつの時代にもあるのだろうが、ひたすら未来志向であった戦後日本の中で懐古趣味が現れ
始めたのはおそらく一九七〇年代初頭であろう。広告に乗せられた面も多分にあるが、倉敷や萩、津和野などの街が
観光地として人気となった。しかしその時代には東京が懐古の対象になることは——下町以外は——まずなかった。

ところが一九八〇年代になると、²近代都市を懐かしむという不思議な心理傾向が支持され始めた。これをよく表すのが森まゆみの谷根千（谷中、根津、千駄木）での活動であり、藤森照信の建築探偵活動であろう（雑誌『谷根千』の創刊は昭和五九（一九八四）年、建築探偵の活動は昭和四九（一九七四）年）。

今から見れば当然すぎてわからないが、特に何があるわけでもない谷根千のような町が注目されたのは、特に何があるわけでもない町こそが東京では珍しくなっていたからである。新しいものがあるのではなく、新しいものがなく、古いものが残っている町の風景に人々は惹かれ始めた。

藤森は、いわゆる近代建築のみならず、震災後に東京中に現れた木造モルタルづくりや銅葺きの商店という、取るに足らない庶民建築をも好奇と懐古の対象に据えて、それらを「看板建築」と命名し、われわれの物の見方に大きな影響を与えた。

さらに近年は、近代化住宅の象徴である団地すらが懐古の対象になっており、古い団地の建て替えを惜しむ人が増えている。戦後の日本、都市、東京、郊外の風景もまた原風景となったのだ。

近代が、あるいは戦後が、目指すべき未来ではなく、懐古すべき過去になったのである。それは近代をリードしたエリートや革命家たちが崇拜された時代から、名もない庶民の日々の活動を評価する時代への変化でもあった。またそれは、団塊の世代である藤森やその下の世代である森による、革命を目指した時代への批評でもあったに違いない。

近代合理主義者も左翼革命家も、過去を否定し、近代の矛盾をすら乗り越えて、未来は今より良くなると信じる人々であるという意味では同じであった。世界中が同じ法則にのっとって共産主義へと進化するべきだと考えるマルキシズムと、世界中がナイキとギャップとコカ・コーラとウォルマートになれば世界中の人々が幸せになれると考える今日のグローバリゼーション勢力とは同質である。

そして³近代建築もまた、それが「国際様式」とも言われたことから明らかなように、グローバリゼーション的

な価値観を共有していた。そして、ザハの建築も、その新奇性とは裏腹に、むしろそれだからこそ、その建築がつけられる場所性を問わない普遍的なデザインであると言われる。その意味でモダニズムとはまったく異なるように見えるザハの建築もモダニズム建築と同じであり、世界中の人々がナイキのシューズを履くのと同じ意味でやはりグローバルゼーション時代の建築なのである。

(三浦展『新東京風景論』より)

(注) ○高度経済成長期——日本の経済が飛躍的に成長を遂げた時期で、一九五四年から一九七三年の十九年間を指す。

○蝟集——多くのものが一時に一か所に寄り集まること。

○団塊の世代——日本においていわゆる第一次ベビーブームの時期に生まれた、一九四七年～一九四九年生まれの世代を指す。

○ナイキ——アメリカ合衆国に本社を置く世界的スポーツ関連用品メーカー。

○ギャップ——アメリカ合衆国に本社を置く世界的製造小売業メーカー。

○ウォルマート——アメリカ合衆国に本社を置く世界的スーパーマーケットチェーン。

○ザハ——ザハ・ハディッド（一九五〇～二〇一六）。イギリスの世界的建築家。

問1 空欄 **X** に入る最も適切な言葉を次の①～⑤の中から一つ選んで、その番号を書け。

- ① 失望
- ② 悔恨
- ③ 愁訴
- ④ 鎮魂
- ⑤ 感傷

問2 傍線部1「二重の喪失感」とは具体的にどういうことか。百字以内(句読点を含む)でわかりやすく説明せよ。

問3 傍線部2「近代都市を懐かしむ」とは具体的にどのようなことか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選んで、その番号を書け。

- ① 東京にまだ残っている珍しい場所を探し求めること。
- ② 東京の中にある古いものが残っている町並みに心惹かれること。
- ③ 近代化住宅の象徴たる東京の団地にわざわざ建て替えて住むこと。
- ④ 東京が新しさの象徴であるとともに、古さの象徴としても評価されること。
- ⑤ 東京がもはや進歩すべき未来ではなく、捨て去るべき過去として感じられること。

問4 傍線部3「近代建築もまた、それが「国際様式」とも言われたことから明らかに、グローバルゼーション的な価値観を共有していた。」について、「グローバルゼーション的な価値観」とは、ここでは具体的にどのような価値観のことか。四十字以内(句読点を含む)で説明せよ。

問5 右の文章の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選んで、その番号を書け。

- ① 現代における故郷は象徴的な意味において東京にしか存在しない。
- ② 東京タワーでさえあと数十年もしたら消えてなくなる可能性がある。
- ③ 森まゆみや藤森照信らの活動には革命を目指した時代への批評もあつたはずである。
- ④ 倉敷や萩、津和野などは一九八〇年代になると次第に懐古の対象にならなくなった。
- ⑤ 高度経済成長の中でマルキシズムはグローバリゼーション勢力に同質化してしまった。

【次の二の問題は、三年次編入学試験受験者対象の問題である。三年次編入学試験受験者のみ解答せよ。】

二 次の1～5の説明に該当する作家名を、姓名ともに漢字で書け。〔10点〕

- 1 明治三十年に発表した詩集『若菜集』は大きな反響を呼んだ。明治三十九年に小説『破戒』を自費出版し、続けて自伝的作品『春』『家』を発表した。昭和四年から書き始めた『夜明け前』は完成に七年を要した。
- 2 明治四十三年「白樺」を創刊した。長年父と対立していたが、大正六年に父との和解が成立すると、父との対立から和解までを書いた『和解』を発表している。昭和十二年には唯一の長編『暗夜行路』を完成させた。

3 東京帝国大学在学中に「新思潮」に載せた『鼻』が夏目漱石に激賞された。『地獄変』『奉教人の死』『杜子春』『藪の中』など優れた作品を発表した。

4 第二次世界大戦後、『墮落論』『白痴』によって脚光を浴びた。さらに『桜の森の満開の下』などを発表し、無頼派の一人として地位を確立した。

5 安岡章太郎、吉行淳之介らとともに「第三の新人」と呼ばれた。日本の精神風土とキリスト教との相克をテーマに『海と毒薬』『沈黙』『侍』『深い河』などの小説を書いた。

【次の三の問題は、二年次編入試験受験者対象の問題である。二年次編入試験受験者のみ解答せよ。】

三 次の1～5の文学作品の作者名を、あとのア～コの中からそれぞれ一つずつ選んで、その記号を答えよ。〔10点〕

- 1 『雪国』 2 『斜陽』 3 『楡家の人びと』 4 『友情』 5 『放浪記』

ア	林芙美子	イ	堀田善衛	ウ	三浦哲郎	エ	北杜夫	オ	宮本百合子
カ	武田泰淳	キ	川端康成	ク	横光利一	ケ	太宰治	コ	武者小路実篤

四

次の文は『無名草子』の一節である。八十三歳になる老尼を聞き手に、女性たちが次々と事物・人物・物語について批評を語る中、ある女性が文学の力について紫式部を引き合いに出し、語り始める場面である。これを読んで、あとの設問に答えよ。〔40点〕

「歌をも詠み詩をも作りて、名をも書き置きたるこそ、百年千年をa 経て見れども、只今その主なにさし向かひたる心地して、ア いみじくあはれなるものはあれ。されば、ただ一言葉ひとことばにても、末の世にとどまるばかりのふしを書きとどむべき、とはおぼゆる。繰言くりごとのやうには侍れど、つきもせず羨ましくめでたく侍るは、大齋院より上東門院、「1 つれづれb 慰なぐさみぬべき物語やさぶらふ」と尋ね参らせ給へりけるに、紫式部を召して、「何をか参らすべき」と1 仰せられければ、「めづらしきものは、何か侍るべき。新しく作りて参らせ給へかし」と申しければ、「作れ」と仰せられけるを承りて、『源氏』を作りたりけるこそ、いみじくめでたく侍れ。」と言ふ人侍れば、また、「いまだ宮仕へもせで里に侍りける折、2 かかるもの作り出でたりけるによりて、召し出でられて、それゆる紫式部といふ名は付けたり、とも申すは、3 いづれかまことにて侍らむ。その人の日記といふもの侍りしにも、「参りけるはじめばかり、恥づかしうも心にくくも、また添そひ苦しうもあらむずらむと、おのおの思へりけるほどに、いと思はずにほげづき、かたほにて、一文字をだに引かぬさまなりければ、かく思はず、と4 友達ともども思はる」などこそ見えて侍れ。君の御有様などをば、いみじくめでたく思ひ聞こえながら、つゆばかりもかけかけしく馴らし顔に聞こえ出でぬほども、いみじく。また、皇太后宮の御事を、限りなくめでたく聞こゆるにつけても、ウ 敬うやまなきなつかしくさぶらひけるほどのことも、君の御有様も、なつかしくいみじくおはしましたし、など聞こえあらはしたるも、心に似ぬ体にてあめる。かつはまた、御心がらなるべし。」

(注) ○大齋院——村上天皇皇女選子内親王。

○上東門院——上東門院彰子。父は藤原道長。

○添ひ苦しうもあらむずらむ——付き合いくくもあろうよ。

○ほけづき——ぼんやりしていて。

○かたほにて——世慣れておらず。

○君——ここでは藤原道長のこと。

○かけかけしく馴らし顔に——何かを期待した馴れ馴れしい顔つきで。

○皇太后宮——ここでは上東門院彰子のこと。

問1 波線部 a・b の動詞について、その終止形をひらがなで記せ。

問2 二重傍線部 ア～ウ の語句の意味を答えよ。

問3 傍線部 1 「仰せられければ」を主語を補い現代語訳せよ。

問4 傍線部 2 「かかるもの」とは具体的に何か答えよ。

問5 傍線部 3 「いづれかまことにて侍らむ」とあるが、「いづれ」とは何と何を指しているか。①～⑤の中から正しいものを一つ選んで、その番号を書け。

① 紫式部が宮仕えしたこと、宮仕えをしないで里にいたこと。

② 宮仕えに出るから『源氏物語』を書いたことと、宮仕え前に『源氏物語』を書いていたこと。

- ③ 上東門院に『源氏物語』の執筆を依頼されたことと、上東門院より紫式部の名を賜ったこと。
- ④ 大斎院に『源氏物語』の執筆を依頼されたことと、上東門院に『源氏物語』の執筆を依頼されたこと。
- ⑤ 上東門院より「紫式部」の名を賜ったことと、元々「紫式部」という名だったこと。

問6 傍線部4「友達ども思はる」とあるが、紫式部は「友達ども」にどう思われていたのか、説明せよ。

【次の⑤の問題は、三年次編入学試験受験者対象の問題である。三年次編入学試験受験者のみ解答せよ。】

⑤ 次の1～5の説明に該当する作品名、ジャンル名、人物名を漢字で書け。〔10点〕

- 1 奈良時代に編まれた我が国最初の漢詩集。
- 2 十の短編物語を集めた王朝物語的作品で、奇抜な構想到に特色がある。
- 3 愛人・平資盛との交流と、資盛没後の追慕の歌を中心とする私家集。
- 4 いわゆる「四鏡」の最後に位置する歴史物語で、南北朝の内乱の様子を公家の立場から語っている。
- 5 俳文に『野ざらし紀行』『笈の小文』などがあり、別号を「桃青」という元禄期の俳人。

【次の六の問題は、二年次編入学試験受験者対象の問題である。二年次編入学試験受験者のみ解答せよ。】

六

次の1～5の人物の著書・編書、または編集に大きく関与したと思われる作品を、あとのア～コの中からそれぞれ一つずつ選んで、その記号を答えよ。〔10点〕

- 1 太安万侶
- 2 紀貫之
- 3 藤原公任
- 4 世阿弥
- 5 滝沢馬琴

ア	万葉集	イ	新古今和歌集
カ	南総里見八犬伝	キ	風姿花伝
ク	古今和歌集	ケ	大鏡
コ	曾根崎心中	ク	古事記
		カ	雨月物語
		キ	和漢朗詠集